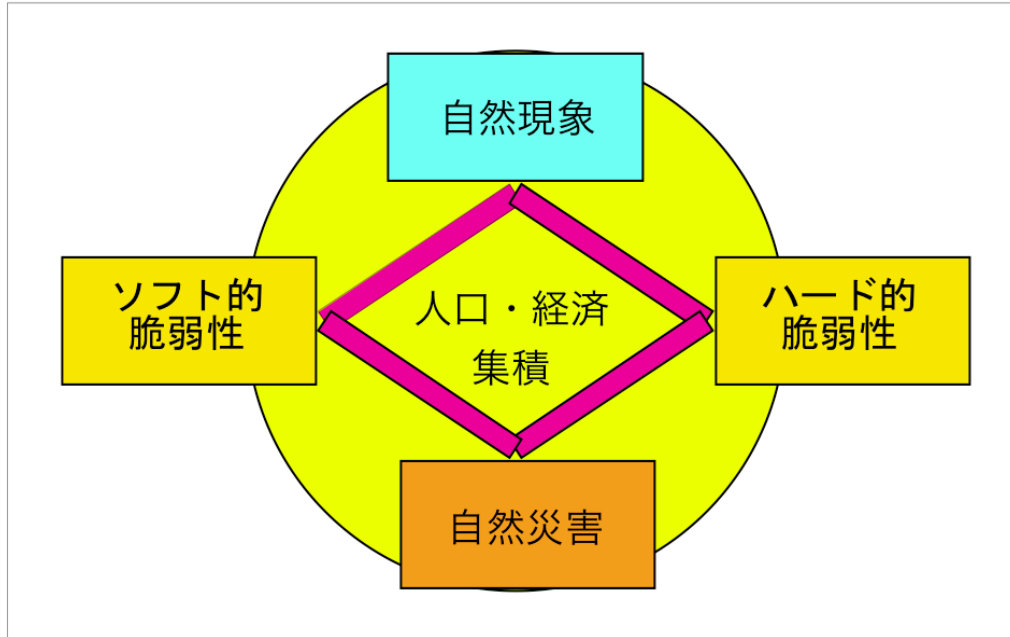


早稲田大学 オープンカレッジ 2021年10月02日

阪神・淡路大震災と神戸市長田区 人間・社会的視点から見た災害【寄藤 昂】

1. 第1の「はじめに」 (担当3回の序論として)



1.1 災害の発生-- 1

災害の「源」は地球本来の自然現象+人間活動。

- 地盤現象 ---> 地震、火山噴火
- 大気現象 ---> 暴風、竜巻、豪雨、豪雪
- 「水」の問題 ---> 洪水、高潮、渇水
- 「日射」の問題 ---> 異常高温、異常低温
- 人為による改変 ---> 地形改変、流路変更
- 人間活動の負荷 ---> 過灌漑、大気・水質汚染、

1.2 災害の発生-- 2

自然現象が災害となる時、なる条件とは。

- 人口・経済の集積
- 場所という条件
- ハード的脆弱性-1 土木環境、防災設備、施設
- ハード的脆弱性-2 ライフライン、交通・通信施設
- ソフト的脆弱性-1 知識・情報の普及
- ソフト的脆弱性-2 政治・経済システムの対応力
- ソフト的脆弱性-3 社会組織の対応力

1.3 災害と人間・社会

- 災害の源となる自然現象は絶えず発生
- 住民・経済活動が無い場所は災害も無い
- 故に「被害側」の検討も不可欠
- 「犯人探し」ではなく「事実の解明」を
- 安易な自己責任論は不可

2. 阪神・淡路大震災

2.1 第2の「はじめに」

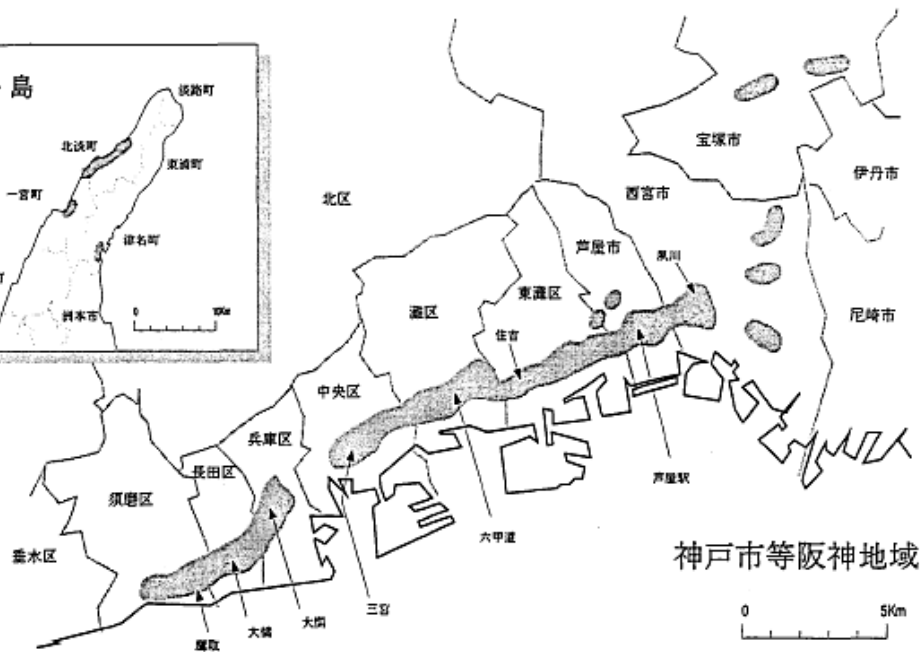
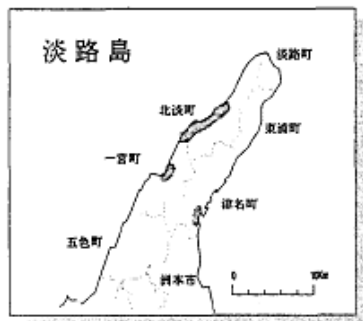
平成7（1995）年1月17日05時46分、淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生。

この地震により、神戸と洲本で震度6を観測したほか一部地域では震度7に相当する揺れが発生、気象庁は、この地震を「平成7年（1995）兵庫県南部地震」と命名した。

- 地震名称 平成7年（1995年）兵庫県南部地震
- 発生時刻 平成7年（1995年）1月17日05時46分
- 震源位置 北緯34度36分東経135度02分深さ16km
- 発生規模 マグニチュード 7.3
- 最大震度 7
- 発震機構 東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型

現地調査による震度7の分布

〔平成7年(1995年)兵庫県南部地震〕



2.2 被害状況（総務省消防庁）

死者 6,434名

行方不明 3名

負傷者 43,792名（内重傷 10,683名）

住家全壊 104,906棟

住家半壊 144,274棟

全半焼 7,132棟

水道断水約130万戸（ピーク時 1*）

ガス供給停止約86万戸（ピーク時 2*）

停電約260万戸（ピーク時 2*）

電話不通30万回線超（ピーク時 3*）

<1*厚生省 2*資源エネルギー庁 3*郵政省>

2.3 神戸市の被害状況（神戸市）

死者 4,571名（H17年12月22日）

行方不明 2名

負傷者 14,678名（H12年1月11日）

住家全壊 67,421棟（H7年12月22日）

住家半壊 55,145棟（H7年12月22日）

全半焼 7,045棟

避難

箇所数 599箇所 (H7.1.26)

避難人数 236,899人 (H7.1.24)

避難所就寝者数 222,127人(H7.1.18)

中小企業・地場産業

ケミカルシューズ

約80%が全半壊または全半焼

清酒造 50%以上の企業が全半壊

2.4 区別の被害状況（神戸市）

人的被害	東灘	灘	中央
死亡者	1,470	934	243
避難所数	120	74	90
避難者数	65,859	40,394	39,090

	兵庫	長田	須磨	垂水西/北	合計
死亡者	556	921	399	48	4,571
避難所数	96	79	69	86	599
避難者数	26,300	55,641	21,728	8,894	236,899

避難所、避難者数はピーク時、各区合計は全市計に一致しない

物的被害	東灘	灘	中央	兵庫	長田	全市
全壊	13,687	12,757	6,344	9,533	15,521	67,421
半壊	5,538	5,675	6,641	8,109	8,282	55,145
全焼	327	465	65	940	4,759	6,965

全壊・半壊...H7.12.22現在、全焼・半焼...H8.2.1最終)(棟)

2.4 長田区の被害の特徴

死者数は東灘区に比べて少ないが、避難者の数が多い。

全壊・半壊の住戸数も多く、全焼住戸では全市の68%を占める。

すなわち、木造中心の老朽建物が密集していたために火災被害が拡大したこと、その割に避難は比較的順調に行われたことが推察される。



JR新長田駅南付近

<人・街・ながた

震災資料室>



長田区大正筋付近 <人・街・ながた震災資料室>

3. 神戸市長田区という街

3.1 位置と規模

兵庫県神戸市の南西部に位置し、南は瀬戸内海、西は須磨区、東は兵庫区に接する南北に細長い地域である。神戸市9区の中で人口が唯一10万人未満と最小であるが、面積も最小であることから人口密度は最も高く1平方キロあたり8500人を超えている。

戦前から家内工業的な零細工場が集積、1960年代には人口が20万人を超えていた。1995年の震災以降人口減に転じ、現在に至っている。

神戸市の区別人口・面積・人口密度

	総人口 (2015)	面積 (km ²)	人口密度
100 神戸市	1,537,272	552.02	2,784.8
101 東灘区	213,634	30.36	7,036.7
102 灘 区	136,088	32.40	4,200.2
105 兵庫区	106,956	14.52	7,366.1
106 長田区	97,912	11.48	8,528.9
107 須磨区	162,468	28.91	5,619.8
108 垂水区	219,474	28.02	7,832.8
109 北 区	219,805	240.71	913.2
110 中央区	135,153	27.80	4,861.6
111 西 区	245,782	137.82	1,783.4

3.2 外国人市民

港湾都市・工業都市であり、中小零細工場も集中していた神戸には、戦前から朝鮮半島や国内他地域からの移住労働者が多く流入していた。それらの人々によって下層住民の集住地区が形成されることを嫌った神戸市は、水害対策として実施した生田川（1871年）と湊川（1901年）の付け替え工事に合わせて新たに制定した「居住地」への強制的な移住・集住を進めた。

新湊川流域周辺に存在した被差別部落地区には、この政策によって国内貧困層と外国人労働者が流入して人口が激増、隣接・

混在する形で朝鮮人集落も生まれた。

19世紀末から20世紀初頭にかけては、マッチの製造と輸出が活況を呈し、担ったのはそれら下層住民による家内工業・家族労働的生産であった。

マッチ製造が衰退すると、入れ替わりにゴム工業が登場、ゴム靴の製造が新たな成長分野となった。戦後も朝鮮半島出身の人々は定住を続け、就労には様々な制約が課せられる一方で、統制下にあったゴムを「外国人」故に使えたことでゴム靴の製造が発展、後のケミカル・シューズ産業へと繋がった

神戸市、区別の外国人人口・比率

	総人口	外国人人口	比率
神戸市	1,533,588	49,477	3.23
東灘区	214,545	6,344	2.96
灘区	133,474	4,719	3.54
兵庫区	109,411	6,308	5.77
長田区	98,051	7,115	7.26
須磨区	160,900	3,525	2.19
垂水区	221,309	2,724	1.23
北区	216,066	2,342	1.08
中央区	137,782	13,355	9.69
西区	242,050	3,045	1.26

2020年住民基本台帳による

3.3 近年の変化

1980年代に入ると、インドシナ難民のために設置された姫路定住促進センター出所後の就労・居住地として長田地域にベトナム人が急増する。3ヶ月から4ヶ月の日本語訓練を受けて社会に出るベトナム人にとって比較的簡単な技術習得で日本語能力が低くても従事できるケミカルシューズ産業は、家族全体が就労できる仕事でもあり、製茶やマッチ工場の仕事をもとめて流入した在日コリアンと同じくベトナム人も長田のマイノリティ集積の歴史を繰り返すこととなった。<金宣吉 KIMSongil,2014>

年度	1965	1970	1975	1980	1985	
総人口	214,365	210,072	185,974	155,546	148,590	
外人登録者	10,787	11,536	11,641	11,443	10,990	
韓国・朝鮮籍	10,358	11,103	11,237	11,030	10,420	
比率(%)	96.0	96.2	96.5	96.4	94.8	
ベトナム籍	-	-	-	0	115	
比率(%)	-	-	-	0.0	1.0	
年度	1990	1995	2000	2005	2010	2012
総人口	136,884	96,807	105,647	103,771	101,677	99,977
外人登録者	10,618	10,422	8,446	7,996	7,301	7,096
韓国・朝鮮籍	9,860	9,003	7,322	6,592	5,621	5,292
比率(%)	92.9	86.4	86.7	82.4	77.0	74.6
ベトナム籍	295	440	532	666	862	909
比率(%)	2.8	4.2	6.3	8.3	11.8	12.8

<金宣吉(KIMSongil),2014 から加工>

在日コリアンにとって、変化は見えているが長田区は今も重要な拠点であり、以下のような団体・組織が拠点を置いている。

一般社団法人神戸コリア教育文化センター
長田区若松町3-1-1-103

西神戸朝鮮初級学校
長田区浜添通1-2-6

在日本大韓民国民団 兵庫県地方本部 神戸韓国教育院
長田区西尻池町 2丁目4-30

韓国民団 西神戸支部 神戸韓国学園
長田区神楽町 4丁目 2-1 3

3.4 ケミカル・シューズ産業

1909年に神戸ダンロップ護謨（株）設立、1914年の第一次世界大戦を機にゴムの需要は急速に伸び、ゴム靴や長靴の生産開始、1920年代には区内に多くのゴム工場が建設された。

その後ゴム靴の価格下落や第2次世界大戦の被害により長田のくつ産業は衰退の危機を迎えたが、1952年ゴムに代わる新たな素材を使ったケミカルシューズが誕生。色や形などファッション性に富んだ靴として、ピーク時の1971年には約1億足、金額にして約532億円分が生産され、そのうち約4割が輸出された。

1995年の阪神・淡路大震災により、長田のくつ産業は甚大な被害を受けたが、2000年には震災からの復興と、くつのまち長田の活性化を目的に、細田町にシューズプラザを創設。2016年には地域団体商標（ブランド）として「神戸シューズ」を特許庁に出願して認められた。

さらに2017年、アディダスジャパン株式会社が世界最先端レベルの計測が可能で製靴機器を備えた国内初のフットウェア開発拠点「アディダス フットウェアラボ（adidas footwear lab）」を開設した。

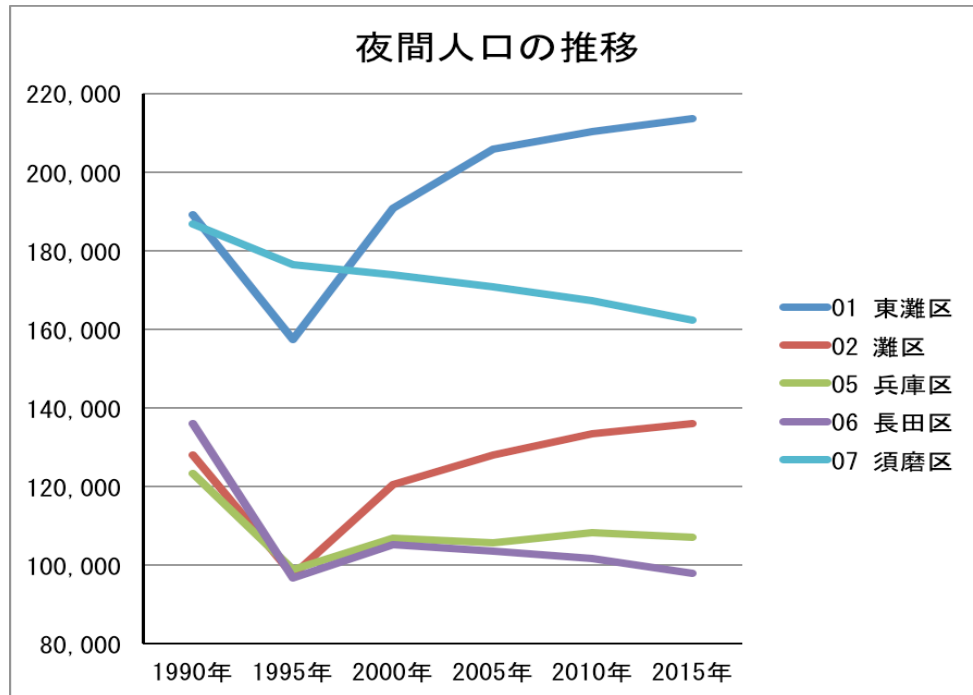
4. 長田区における震災と復興

4.1大正筋（新長田駅前）の現状

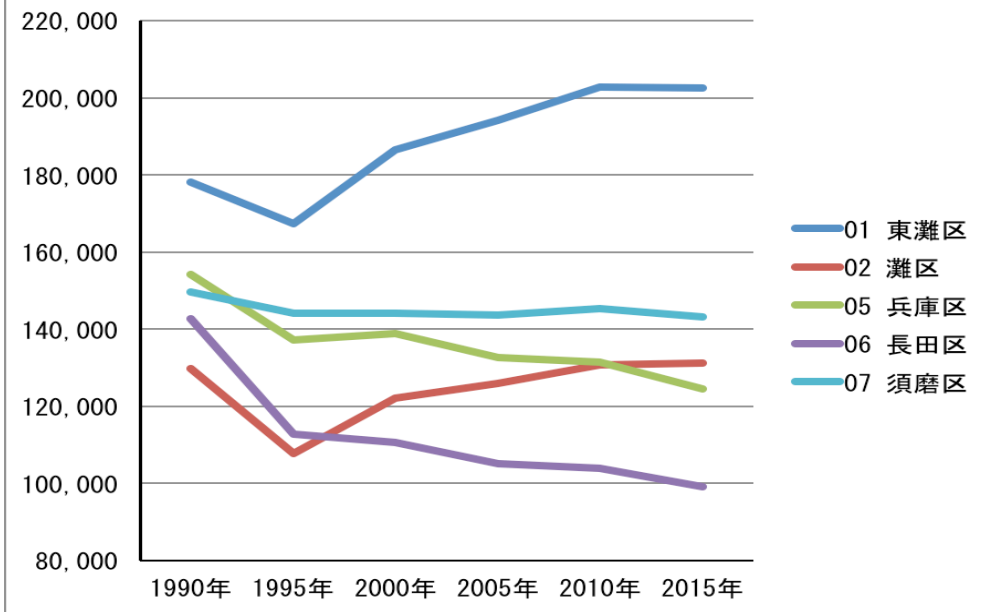




4.2 復興はできたのか



昼間人口の推移



4.3 何故そんなことに

- ポートアイランド以来の「神戸方式」への過信。
- 平地が狭く、意味の乏しい「副都心」構想。
- 戦災復興時の体験から来るトラウマ。
- 差別意識を含む「都市美化」願望。

5. まとめ

- 阪神淡路大震災は、日本の近代都市初めての直下型地震
- 犠牲者の多くが建物倒壊による「圧死」だった
- その中で長田区だけが異様に激しい火災に逢った
- 原因は老朽木造住宅の密集と、ケミカルシューズ産業
- マッチーゴムーケミカルシューズ、家内工業の集積
- 社会的弱者の就労機会・受け皿でもあった
- 安易な開発・都市美化政策は、地場産業を追いつめ
- 地代・家賃の高騰を招いて、弱者の追い出しに至る